

守ります、伝承します！ 尾州産地のこの

技

メンズ生地 of 匠・渡邊忠司さん（所属・FDCユーロテキスタイルプロジェクト補佐）



「自由な発想が少ない、企業人の理解が必要」

■キャリア

昭和33年 今伸毛織入社、玉角毛織、江崎織物、山長勤務
平成11年 山長定年退社、いわなかを経て
13年 FDC嘱託

■業務経歴

紳士服地の見本、企画、営業開発、素材開発などが専門
1年半、ニットづくりに参加の経験も

■現在の尾州産地の現状認識（往時との比較）

ものづくりのプロが不足しており、自由な発想が少ないと思う。多分、納期に追われて、ものづくりに時間が費やせず、心がこもっていないのだろう。

■貴方が、今伝承している技は？

①メンズ素材の基本＝毛織物の基準密度の算出と応用。

②産地ノウハウ（技）＝創造性や感性の優れた人達の設計へのアドバイス。これは時代の捉え方とか、トレンドの捉え方・活かし方という内容。

■貴方の技の伝承に必要なものは？

人材の育成と人と人の交流、企業人の参加と理解など。さらに行政の人達の時代感と業界の現状に対する理解度も必要。

■11月東京で開催されたJB（ジョイント・尾州）出展作品での貴方の訴求ポイントは？

時代時代にそれぞれ中心となる素材があり、それを掴み、本物で表現する、という立場から05/06AWではジーンズに合わせることができる服地づくりに挑戦した。紳士服向けだが、婦人服にも使用可能なソフトな風合い、カジュアル感、優しさのあるカラーをポイントにした。

レディース生地の匠・足立 聖さん（所属・カナーレ）

「JB東京展では“糸でない糸”の提案」

■キャリア

平成6年 郡上紡績退社
8年 カナーレ設立

■業務経歴

婦人織物企画

■現在の尾州産地の現状認識

高齢化、後継者不足

■貴方が、今伝承している技は？

企画設計

■11月に東京で開催されたJB（ジョイント・尾州）出展作品での貴方の訴求ポイントは？

糸でない糸の提案

